

2026年8月14日

学修実態および授業評価 に関する報告書

2026年春学期

清泉大学 人文社会科学部
IR室

目的

- 清泉大学 人文社会科学部 の授業科目における学修実態を把握する.
- 項目に応じて「学年別」×「授業形態」別, またはDP別に分析する.
- 本学の教学マネジメント体制における, 教育課程の編成に関する全学的な方針の検討への基礎データとして活用する.
- 調査項目
 - I 学修実態(①学修時間, ②予復習の実態)
 - II 授業評価
 - III 授業満足度

■ 調査時期

- ・ 2026年7月

■ 調査対象

- ・ 清泉大学 人文社会科学部 を対象.
- ・ 分析対象は, 2026年度春学期に開講した人文社会科学部科目のうち70科目(※). 総回答数1,354件.

表1 配当年次・授業形態別 人文社会科学部科目の分析対象

配当年次		講義	演習	実習	計
人文社会科学部全体	1年次科目	13	18		31
	2年次科目	25	13		38
	2・3年次科目			1	1
総計		38	31	1	70

(※)アンケート回答があった科目のみ掲載（実際の開講科目数とは異なる）

人文社会科学部科目 分析対象

表2 配当年次・授業形態別・学科/コース別 人文社会科学部科目の分析対象

科目分類	配当年次	講義	演習	実習	総計
文化芸術学科	1年次科目	5	2		7
	2年次科目	11	7		18
	文化芸術学科全体	16	9		25
情報コミュニケーション学科	1年次科目	1	1		2
	2年次科目	13	6		19
	コース全体	14	7		21
教養教育科目	1年次科目	7	15		22
	2年次科目	1			1
	2・3年次科目			1	1
	教養教育科目全体	8	15	1	24
人文社会科学部全体		38	31	1	70

調査項目および分析の枠組み

本報告では、授業評価アンケートの設問を分析目的に応じて3つの調査項目に整理した。

●Ⅰ「学修実態」ではQ2・Q3を、Ⅱ「授業評価」ではQ5～Q14を、Ⅲ「授業満足度」ではQ15を用いて分析した。

●Q2・Q3は「配当年次×授業形態別」、Q5～Q14は各科目が対応する「DP①～③」別に集計した。

※Q5～Q14のDP別集計は情報コミュニケーション学科、および教養教育科目のみ

●Q2は「0分」から「2時間以上」までの5段階、Q3は予習・復習の取組状況を5区分、Q5～Q15は「そう思わない」から「そう思う」までの5件法で回答を求めた。

調査項目	分析対象設問	分析軸	分析目的	回答方法
Ⅰ 学修実態	Q2, Q3	配当年次×授業形態	学修時間・予復習の実態把握	Q2:時間区分による5件法／Q3:予習・復習の取組区分
Ⅱ 授業評価	Q5～Q14	「DP①～③」別	学習成果目標に対応する科目群の授業評価を把握	「そう思わない」～「そう思う」の5件法
Ⅲ 授業満足度	Q15	配当年次×授業形態	満足度評価を把握	「そう思わない」～「そう思う」の5件法

調査項目 I 学修実態の調査

調査項目 I -① 学修時間(人文社会科学部全体) 記述統計

表3 配当年次・授業形態別 人文社会科学部全体の学修時間の平均

配当年次	講義		演習		実習		全体	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
1年次科目	2.38 (0.42)	13	2.62 (0.55)	18			2.52 (0.52)	31
2年次科目	2.65 (0.55)	25	2.45 (0.73)	13			2.58 (0.62)	38
2・3年次科目					1.46 (0.00)	1	1.46 (0.00)	1
人文社会科学部全体	2.56 (0.52)	38	2.55 (0.64)	31	1.46 (0.00)	1	2.54 (0.59)	70

- 人文社会科学部全体における学修時間の平均値は、2.54(推定46.2分)であった。昨年同期との比較では、平均値は0.1ポイント低下した。推定学修時間も49.2分から46.2分へ約3分減少した。
- 配当年次別では1年次科目2.52、2年次科目2.58と、2年次科目がわずかに高いものの、両年次は概ね同水準であった。
- 2・3年次実習は1.46と低いが、対象は教養教育の1科目(インターンシップ)のみであるため参考値として扱う必要がある。

参考
昨年度推定
学修時間

2025年度春

49.2分

調査項目 I -① 学修時間(教養教育科目) 記述統計

表4 配当年次・授業形態別 教養教育科目全体の学修時間の平均

配当年次	講義		演習		実習		全体	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
1年次科目	2.51 (0.46)	7	2.71 (0.55)	15			2.65 (0.53)	22
2年次科目	3.89 (0.00)	1					3.89 (0.00)	1
2・3年次科目					1.46 (0.00)	1	1.46 (0.00)	1
教養教育科目全体	2.68 (0.63)	8	2.71 (0.55)	15	1.46 (0.00)	1	2.65 (0.62)	24

- 教養教育科目の学修時間平均は2.65(推定49.5分)で、人文社会科学部全体2.54を上回った。授業形態別でも講義2.68、演習2.71と比較的高い。
- 前年の推定41.6分から49.5分へ約7.9分増加しており、専門2学科が前年を下回る中、教養教育科目では学修時間が増加した。
- 1年次科目は平均2.65で、特に演習2.71と高かった。2年次講義3.89は高い値であるが1科目のみであり、2・3年次実習1.46も1科目のため、いずれも参考値として扱う必要がある。

参考
昨年度推定
学修時間

2025年度春

41.6分

調査項目 I -① 学修時間(文化芸術学科) 記述統計

表5 配当年次・授業形態別 文化芸術学科全体の学修時間の平均

配当年次	講義		演習		実習		全体	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
1年次科目	2.35 (0.24)	5	2.36 (0.04)	2			2.35 (0.21)	7
2年次科目	2.75 (0.53)	11	2.37 (0.88)	7			2.60 (0.71)	18
文化芸術学科全体	2.62 (0.50)	16	2.37 (0.78)	9			2.53 (0.63)	25

- 文化芸術学科での学修時間の平均値は、2.53(推定45.9分)であり、学部全体平均2.54とほぼ同水準である。
- 昨年同期2.61(推定48.3分)から0.08ポイント低下しているが、低下幅は小さく、学修時間はおおむね同水準といえる。
- 配当年次別では1年次2.35に対して2年次2.60と高く、特に講義は2.35から2.75へ上昇した。一方、演習は1年次2.36、2年次2.37とほぼ同水準であった。
- 昨年度の1年次科目の全体平均が(2.61)であったので、2年次科目の全体平均(2.60)の結果から、昨年度入学生は2年生でも同水準の学修量を維持している結果といえる。

参考
昨年度推定
学修時間

2025年度春

48.3分

調査項目 I -① 学修時間(情報コミュニケーション学科) 記述統計

表6 配当年次・授業形態別 情報コミュニケーション学科の学修時間の平均

配当年次	講義		演習		実習		全体	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
1年次科目	1.71 (0.00)	1	1.75 (0.00)	1			1.73 (0.02)	2
2年次科目	2.48 (0.42)	13	2.54 (0.48)	6			2.50 (0.44)	19
情報コミュニケーション学科全体	2.42 (0.45)	14	2.43 (0.52)	7			2.42 (0.48)	21

- 情報コミュニケーション学科の学修時間平均は2.42(推定42.7分)で、人文社会科学部全体2.54を0.12ポイント下回った。講義2.42、演習2.43と授業形態による差はほとんどみられなかった。
- 前年55.6分から42.7分へ12.9分減少したが、今年度は3・4年次科目の回答がなく、前年の1・2年次科目のみと比較すると概ね同水準である。
- 2年次科目は講義2.48、演習2.54と近い値であり、2年次では授業形態を問わず一定程度の授業外学修時間が確保されている。

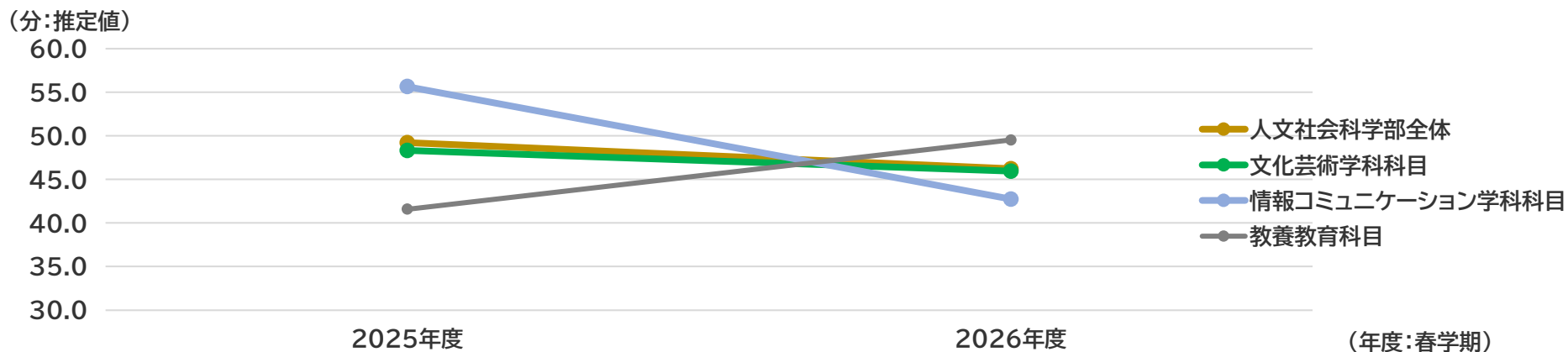
参考
昨年度推定
学修時間

2025年度春

55.6分

調査項目 I -① 学修時間の学部全体・学科別経年推移

表7 人文社会科学部全体/学科 の学修時間推移グラフ(分換算した値)



- 人文社会科学部全体での推定学修時間は、2025年度49.2分から2026年度46.2分と、およそ3分程度減少した。
- 文化芸術学科は48.3分から45.9分へ2.4分減少し、情報コミュニケーション学科は55.6分から42.7分へ12.9分減少した。
- 一方、教養教育科目は41.6分から49.5分へ7.9分増加しており、専門2学科とは異なる動きがみられた。

調査項目 I -② 予習・復習の取組み状況 記述統計

表8 予習・復習の取組み状況

		両方	予習	復習	どちらもあまり やらなかった	やらなかった
1年次科目	講義	17.6%	17.5%	53.4%	8.7%	2.8%
	演習	26.2%	10.5%	53.7%	7.9%	1.8%
2年次科目	講義	21.8%	32.6%	37.2%	7.0%	1.4%
	演習	21.1%	24.0%	45.8%	7.1%	1.9%
2・3年次科目	実習	37.0%	0.0%	11.1%	29.6%	22.2%

- 1・2年次の講義・演習では復習を重視する割合が予習を上回り、特に1年次では講義53.4%、演習53.7%が「復習」と回答した。
- 2年次では予習の割合が1年次より高く、講義32.6%、演習24.0%となった。特に2年次講義では予習32.6%、復習37.2%と比較的拮抗している。
- 「どちらもあまりやらなかった」「やらなかった」の合計は、1・2年次の講義・演習では概ね1割前後以下にとどまった。一方、2・3年次科目は非実施割合が高いが、これはインターンシップ1科目であるため、参考値として扱う必要がある。

調査項目 I -② 予習・復習の取組み状況 図表

表9 予習・復習の取組み状況ヒートマップ

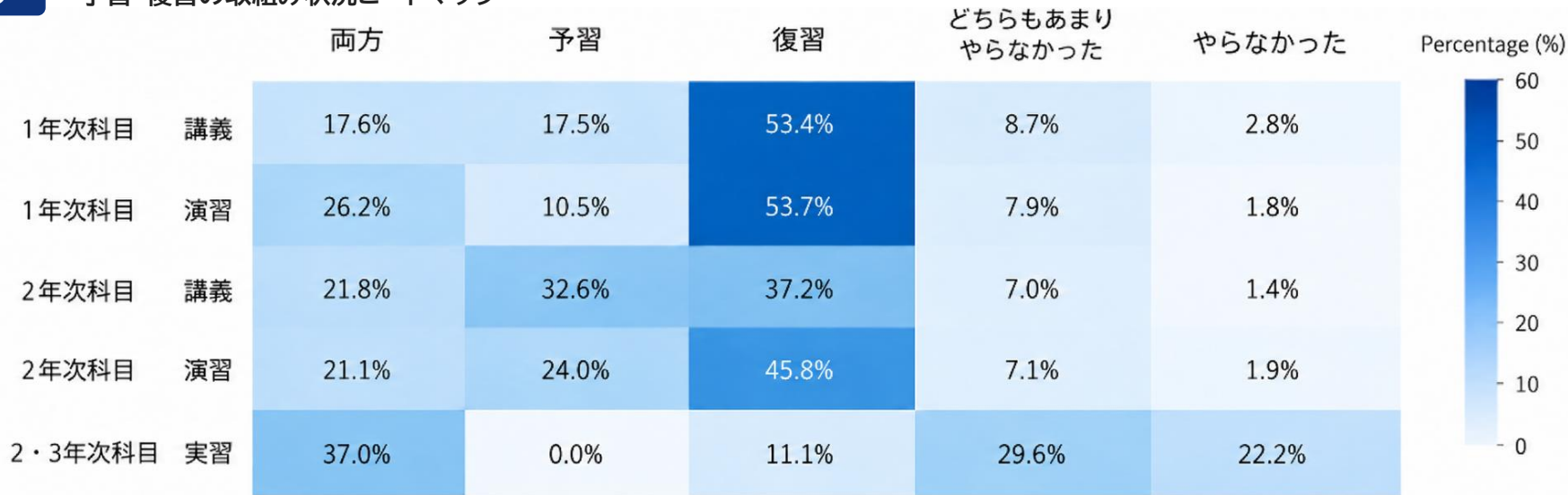
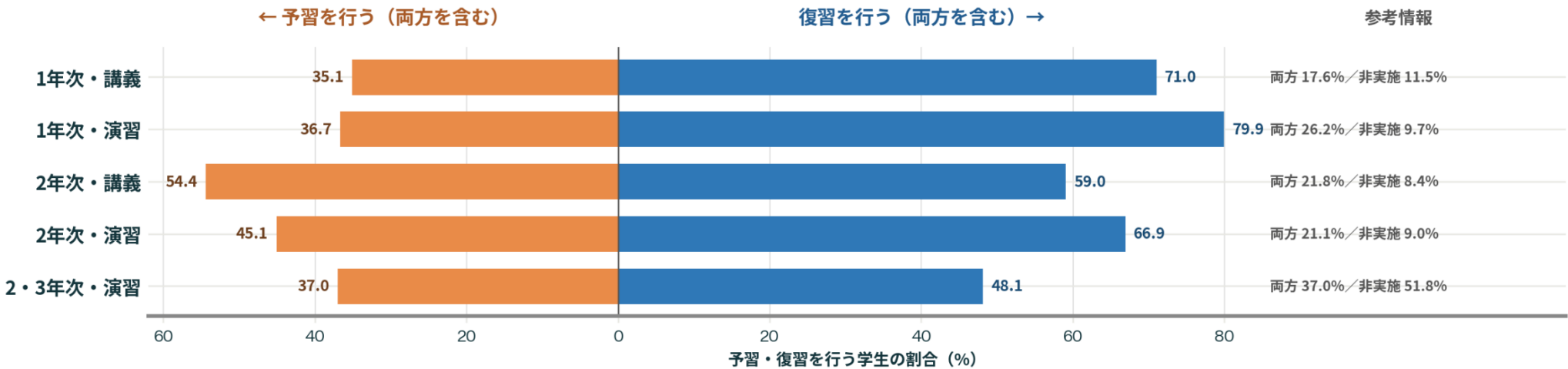


表10 予習・復習の重点度(配当年次・科目区分別)



※『予習』『復習』と回答した割合をそれぞれ左右に配置、『両方』および非実施割合は参考情報として併記し、科目区分ごとの学修行動の傾向を比較。

調査項目Ⅱ 授業評価の調査

(情報コミュニケーション学科, 教養教育科目)

調査項目Ⅱ 授業評価(教養教育科目) 記述統計

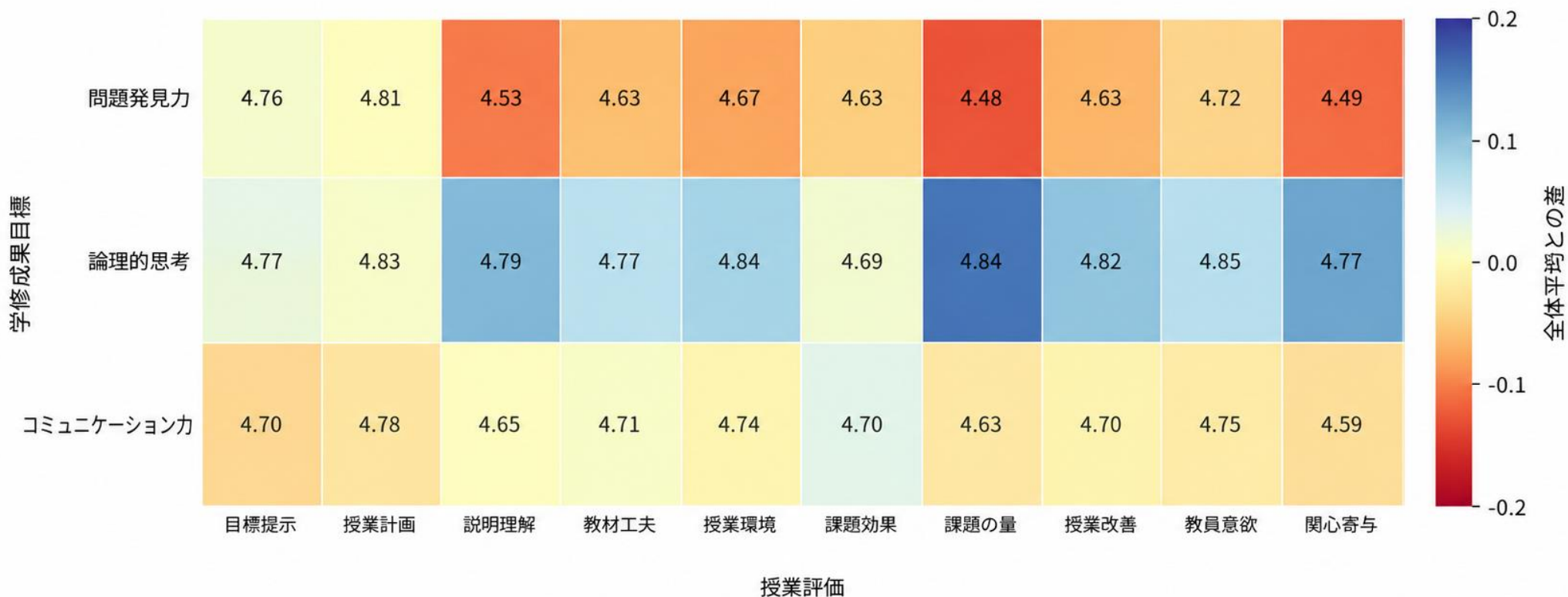
表11 教養教育科目 DP別 授業評価の平均

DPとの関係	学習成果目標	科目数	授業評価									
			目標提示	授業計画	説明理解	教材工夫	授業環境	課題効果	課題の量	授業改善	教員意欲	関心寄与
①	問題発見力	10	4.76	4.81	4.53	4.63	4.67	4.63	4.48	4.63	4.72	4.49
②	論理的思考	3	4.77	4.83	4.79	4.77	4.84	4.69	4.84	4.82	4.85	4.77
③	コミュニケーション力	10	4.70	4.78	4.65	4.71	4.74	4.70	4.63	4.70	4.75	4.59
教養教育科目			4.74	4.81	4.65	4.70	4.75	4.67	4.65	4.71	4.77	4.62

- 教養教育科目全体では、授業評価は概ね4.6～4.8点台と高く、授業計画4.81、教員意欲4.77、授業環境4.75などが高い。一方、関心寄与4.62、説明理解・課題の量4.65が相対的に低い。
- DP①「問題発見力」は目標提示4.76、授業計画4.81と高い一方、説明理解4.53、課題の量4.48、関心寄与4.49が低く、学習成果目標によって評価項目に特徴がみられた。
- DP②「論理的思考」関連科目は、説明理解4.79、授業環境・課題の量4.84、授業改善4.82、教員意欲4.85など、多くの項目で教養教育科目全体を上回った。

調査項目Ⅱ 授業評価(教養教育科目) 図表

表12 学修成果目標別の授業評価結果ヒートマップ



調査項目Ⅱ 授業評価(情報コミュニケーション学科) 記述統計

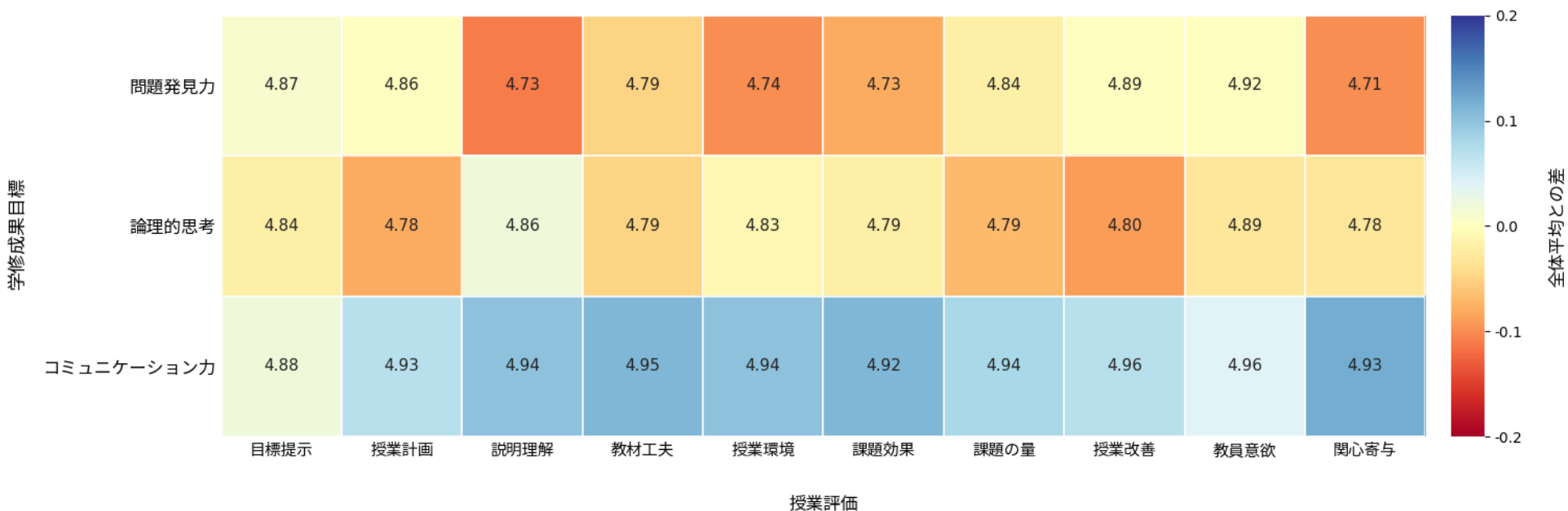
表13 情報コミュニケーション学科 DP別 授業評価の平均

DPとの関係	学習成果目標	科目数	授業評価									
			目標提示	授業計画	説明理解	教材工夫	授業環境	課題効果	課題の量	授業改善	教員意欲	関心寄与
①	問題発見力	5	4.87	4.86	4.73	4.79	4.74	4.73	4.84	4.89	4.92	4.71
②	論理的思考	9	4.84	4.78	4.86	4.79	4.83	4.79	4.79	4.80	4.89	4.78
③	コミュニケーション力	7	4.86	4.90	4.88	4.94	4.90	4.90	4.91	4.92	4.93	4.89
情報コミュニケーション学科全体			4.86	4.84	4.82	4.84	4.82	4.81	4.85	4.87	4.91	4.79

- 情報コミュニケーション学科全体では、各授業評価項目が4.8点前後と高い水準にあり、特に教員意欲4.91, 授業改善4.87, 目標提示4.86が高く評価されている。
- DP①「問題発見力」は目標提示4.87, 授業計画4.86, 授業改善4.89, 教員意欲4.92が学科全体と同程度以上である一方、説明理解4.73, 授業環境4.74, 課題効果4.73, 関心寄与4.71などは相対的に若干低かった。
- DP②「論理的思考」は説明理解4.86, 授業環境4.83が学科全体を上回る一方、授業計画4.78, 課題の量4.79, 授業改善4.80などは相対的には若干低い評価となった。
- DP③「コミュニケーション力」は目標提示を除く多くの項目で学科全体を上回り、教材工夫4.94, 授業改善4.92, 教員意欲4.93, 関心寄与4.89など、授業評価全般で高い評価結果となった。

調査項目Ⅱ 授業評価(情報コミュニケーション学科) 図表

表14 学修成果目標別の授業評価結果ヒートマップ



調査項目Ⅲ 授業満足度の調査

調査項目Ⅲ 授業満足度(人文社会科学部全体) 記述統計

表15 配当年次・授業形態別 人文社会科学部全体の授業満足度の平均

配当年次	講義		演習		実習		全体	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
1年次科目	4.57 (0.19)	13	4.67 (0.21)	18			4.63 (0.21)	31
2年次科目	4.75 (0.19)	25	4.78 (0.21)	13			4.76 (0.20)	38
2・3年次科目					4.62 (0.00)	1	4.62 (0.00)	1
人文社会科学部全体	4.69 (0.21)	38	4.72 (0.22)	31	4.62 (0.00)	1	4.70 (0.21)	70

- 人文社会科学部全体の授業満足度は4.70で、全体として高い水準であった。授業形態別では講義4.69、演習4.72とほぼ同水準である。
- 学部全体の授業満足度は昨年度同期の4.69と比較すると4.70でほぼ同水準となり、高い満足度を維持した。
- 配当年次別では1年次4.63に対して2年次4.76と、2年次科目でやや高かった。1年次では講義4.57、演習4.67と演習が高い一方、2年次では講義4.75、演習4.78と差は小さい。

参考
昨年度満足度

2025年度春

4.69

調査項目Ⅲ 授業満足度(教養教育科目) 記述統計

表16 配当年次・授業形態別 教養教育科目の授業満足度の平均

配当年次	講義		演習		実習		全体	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
1年次科目	4.57 (0.23)	7	4.65 (0.21)	15			4.63 (0.22)	22
2年次科目	4.89 (0.00)	1					4.89 (0.00)	1
2・3年次科目					4.62 (0.00)	1	4.62 (0.00)	1
教養教育科目全体	4.61 (0.24)	8	4.65 (0.21)	15	4.62 (0.00)	1	4.64 (0.22)	24

- 教養教育科目の授業満足度は4.64で、人文社会科学部全体4.70をやや下回ったものの、高い水準であった。
- 授業形態別では講義4.61、演習4.65と大きな差はみられなかった
- 1年次科目は4.63であった。2年次講義4.89、2・3年次実習4.62はいずれも1科目のみであるため、参考値として扱う必要がある。
- 前年4.58から4.64へ0.06ポイント上昇しており、教養教育科目では満足度がやや改善した。

参考
昨年度満足度

2025年度春

4.58

調査項目Ⅲ 授業満足度(文化芸術学科) 記述統計

表17 配当年次・授業形態別 文化芸術学科の授業満足度の平均

配当年次	講義		演習		実習		全体	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
1年次科目	4.55 (0.12)	5	4.63 (0.07)	2			4.58 (0.12)	7
2年次科目	4.66 (0.15)	11	4.76 (0.26)	7			4.70 (0.21)	18
文化芸術学科科目全体	4.63 (0.15)	16	4.73 (0.24)	9			4.66 (0.19)	25

- 文化芸術学科科目における授業満足度の平均値は、4.66であり、高い水準にある。標準偏差も0.19で安定した満足度が確保されている。
- 昨年同期4.83との比較では0.17ポイント低下した。1年次講義科目では0.3ポイント、演習科目で0.2ポイントそれぞれ低下している。
- 科目区分別では、演習が講義を0.10ポイント上回っており、演習科目の方が若干高く評価されている。
- 配当年次別では、2年次科目4.70が1年次科目4.58を0.12ポイント上回っており、2年次科目の満足度が若干高い結果となった。

参考
昨年度満足度

2025年度春

4.83

調査項目Ⅲ 授業満足度(情報コミュニケーション学科) 記述統計

表18 配当年次・授業形態別 情報コミュニケーション学科の授業満足度の平均

配当年次	講義		演習		実習		全体	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
1年次科目	4.71 (0.00)	1	5.00 (0.00)	1			4.85 (0.15)	2
2年次科目	4.82 (0.18)	13	4.81 (0.14)	6			4.82 (0.17)	19
情報コミュニケーション学科科目全体	4.82 (0.18)	14	4.84 (0.14)	7			4.82 (0.17)	21

- 情報コミュニケーション学科科目全体の授業満足度の平均値は、4.82であり、学部全体平均4.70を0.12ポイント上回った。
- 昨年同期の4.72と比較では、0.1ポイント上昇している。
- 科目区分別では、講義・演習科目でほぼ同水準となっており、高い評価を得ている。
- 配当年次別では、1年次科目4.85、2年次科目4.82で、いずれも非常に高い評価で、配当年次での差も小さい。
- 2年次では、講義・演習科目ともに同水準で、授業形態とも安定して高い評価となっている。標準偏差も0.18、0.14と比較的小さく、科目間のばらつきも大きくない。

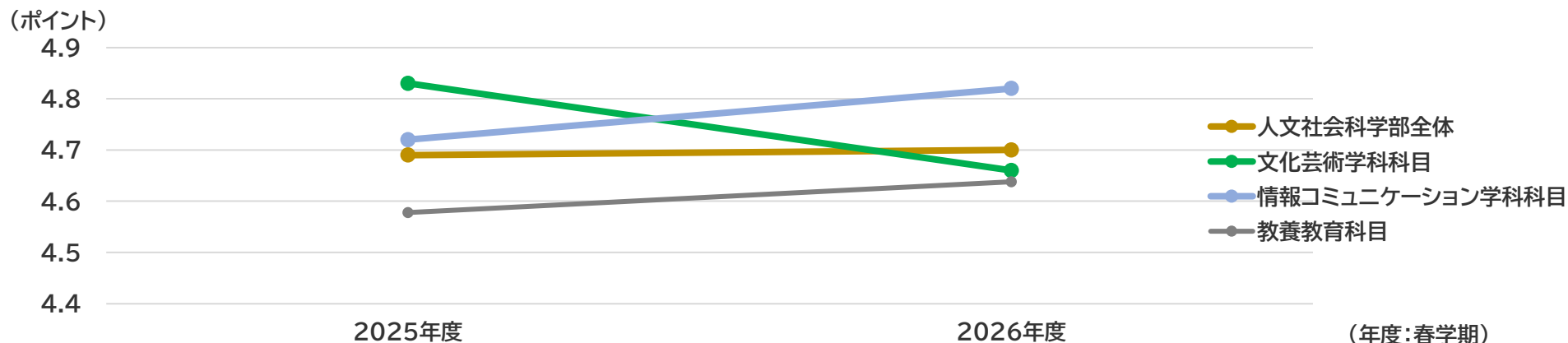
参考
昨年度満足度

2025年度春

4.72

調査項目Ⅲ 授業満足度の学科・コース別経年推移

表19 人文社会科学部全体/学科 の授業満足度推移グラフ(平均値)



年度	人文社会科学部全体	文化芸術学科科目	情報コミュニケーション学科科目	教養教育科目
2025年度	4.69	4.83	4.72	4.58
2026年度	4.70	4.66	4.82	4.64

- 人文社会科学部全体の授業満足度は、2025年度4.69から2026年度4.70とほぼ同水準で、高い満足度を維持した。
- 情報コミュニケーション学科は4.72から4.82へ上昇した一方、文化芸術学科は4.83から4.66へ低下し、学科によって異なる推移がみられた。
- 教養教育科目は4.58から4.64へ上昇し、専門2学科とは異なる推移を示した。

まとめ

- 人文社会科学部全体の学修時間は推定46.2分で、前年49.2分から約3分減少した。文化芸術学科・情報コミュニケーション学科では前年を下回った一方、教養教育科目は41.6分から49.5分へ増加した。
- 予習・復習では、1・2年次の講義・演習とも復習を重視する傾向がみられた。一方、2年次では1年次より予習の割合が高く、学年によって取組の特徴に違いがみられた。
- DPとの対応関係を確認できる情報コミュニケーション学科および教養教育科目の授業評価では、情報コミュニケーション学科の「コミュニケーション力」に対応する科目群で比較的高い評価がみられた。教養教育科目では「論理的思考」が多くの項目で高い一方、「問題発見力」では説明理解・課題の量・関心寄与などが相対的に低かった。
- 授業満足度は人文社会科学部全体で4.70と高い水準を維持した。教養教育科目4.64、文化芸術学科4.66、情報コミュニケーション学科4.82と、いずれも概ね高い評価となった。
- 前年との比較では、情報コミュニケーション学科と教養教育科目で満足度が上昇した一方、文化芸術学科では低下しており、区分によって異なる推移がみられた。